

令和6年度版

かながわの学びの充実・改善のために

令和6年度全国学力・学習状況調査
神奈川県公立小・中学校調査結果の分析・活用資料



「頑張ったね」の、種をまこう。

令和6年10月
神奈川県教育委員会

*本資料に掲載した数値については、政令市を含めた全県のデータとしています。

本資料作成の趣旨

全国学力・学習状況調査の目的のひとつに、
学校が、本調査結果を活用することで、日ごろの教育活動の成果や課題を把握し、
その充実と改善を図ること
とあります。

各学校においては、自校の結果を調査対象の学年や教科だけではなく、全教職員で共有し、
学校全体で教育活動の充実・改善のために活用することが大切です。

そこで、県教育委員会では、各学校において本調査結果を効果的に活用できるよう、県内公立小・中学校の結果を総合的に分析し、全県の傾向を踏まえ、「かながわの学びの充実・改善のための重点事項」として整理しました。

さらに、重点事項の各項目を踏まえた県内公立小・中学校の取組の好事例を取材・収集し、「学びの充実・改善のヒント」としてとりまとめました。

市町村教育委員会及び学校においては、児童・生徒の豊かな学びを実現するために、本調査結果を有効に活用し、教育活動の質のさらなる向上に取り組んでいただくようお願いします。

本資料の構成

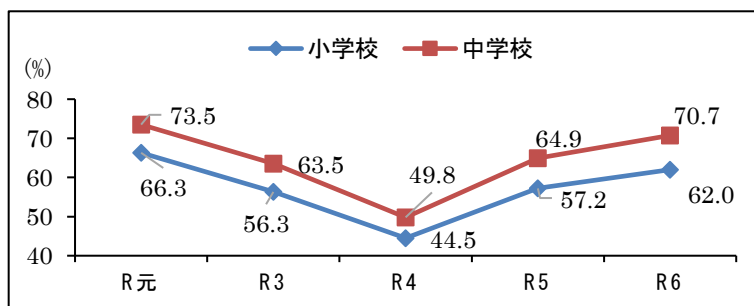
I 教科に関する調査（質問調査を含む）結果の概要	P. 4
II かながわの学びの充実・改善のための重点事項	P. 13
III 学びの充実・改善のヒント	P. 15
1 子どもたちの学びに対する意欲の向上	P. 15
2 自分の考えを文章等で表現する力の向上	P. 19
3 授業改善の推進	P. 23
4 地域・家庭と学校が連携・協働した教育活動の推進	P. 29
<参考情報>	P. 36

○神奈川県では、9年間の教育活動を通して、異年齢を含めた多くの仲間たちと関わり、多様性を認め合う活動の中で、他者を尊重し、思いやる力を育むことを、「めざす小中一貫教育のすがた」の一つとして掲げています。下表の調査結果の通り、小中接続を意識した教育課程の編成は、新型コロナウイルス感染症の流行により一時は減少したものの、徐々に以前の状況に戻りつつあります。

○全国学力・学習状況調査の結果も、その連携を強めるために用いる指標の一つとしてご活用ください。

【学校質問調査】（小68 中72）

前年度までに、近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。



本資料の活用にあたって

各項目の内容と次ページに示した【本資料の活用のポイント】を参考にしながら、各学校の実情に応じて本資料をご活用ください。

I 教科に関する調査（質問調査を含む）結果の概要

小学校の国語と算数、中学校の国語と数学の教科に関する調査の結果を、児童・生徒質問調査における各教科に関わる質問の回答状況とあわせてまとめ、示しています。

II かながわの学びの充実・改善のための重点事項

教科に関する調査の結果と質問調査の結果を総合的に分析し、全県の傾向を踏まえ、次の4点に整理しました。

- 1 子どもたちの学びに対する意欲の向上
- 2 自分の考えを文章等で表現する力の向上
- 3 授業改善の推進
- 4 地域・家庭と学校が連携・協働した教育活動の推進

「かながわの学びの充実・改善のための重点事項」の4つの項目は、昨年度から継続しています。

これは、この4つの項目の充実が、児童・生徒の豊かな学びを実現するうえで重要であるとともに、昨年度から今年度にかけて同一の視点から継続的に見取ること、比較したりその変容を価値付けしたりしやすくなると思ったからです。

ぜひ、昨年度の調査結果と照らし合わせながら、自校の児童・生徒の分析を進めてください。



III 学びの充実・改善のヒント

「かながわの学びの充実・改善のための重点事項」の各項目を踏まえ、「学びの充実・改善のヒント」として取組事例をとりまとめ、示しています。

〈参考情報〉

各学校において、児童・生徒にとっての豊かな学びを実現するために、参考となる各種資料を掲載しています。

【本資料の活用のポイント】



教科に関する調査結果は、どのように活用すればよいですか？

- 各教科の問題ごとに、全県・全国の正答率と無解答率を示しているのので、自校の結果を書き込み、自校の子どもたちの強みや課題を確認することができます。
- その教科に関する質問調査の結果もあわせて掲載しているのので、どのような意識で学習に取り組んでいるのかも踏まえて分析することが可能です。
- 調査対象教科、対象学年の教員だけではなく、校内研究会等の機会でも、全教職員で共有したり協議したりすると、分析がより深まると考えます。



教科に関する調査結果を、単に特定の教科の結果と捉えず、全ての教科の関わりによって得られた結果だと捉えることは大切ですね。

質問調査の結果は、どのように活用すればよいですか？

- 日々の学校生活に対する子どもたちの本音と捉え、授業の進め方や子どもたちへの関わり方などについて、「Ⅲ 学びの充実・改善のヒント」を参考にしながら、各自で考えたり、全教職員で共有したりすることができます。
- 保護者会等で話題に挙げて、学校と家庭の連携した取組を考えることもよいでしょう。
- 継続的に質問調査を行ったり対象学年以外も実施したりして、学校全体で子どもたちの変容を見ていくと、さらに効果的です。



共有したことをどのように日常の教育活動に生かしていけばよいですか？

- 例えば、校内の研究テーマにつなげたり学校の重点目標に位置付けたりすることなどが挙げられます。
- 小中合同の研修等で情報交換をすることで、系統性を意識した授業づくりにも役立ちます。
- 授業づくりでは、子どもたちの学習状況を踏まえつつ、「調査問題の出題の趣旨」「授業アイデア例」(国立教育政策研究所の「報告書」より)を基に、
 - ・目指すべき資質・能力を育成するにはどのような授業を行うとよいのか
 - ・見方・考え方を働かせるためにはどのような工夫をすべきか等を検討するとよいでしょう。



全国学力・学習状況調査の結果は、子どもたちの様々な側面を把握したり、私たちの取組を見直したりする上で、とても有効な根拠となるのですね。

令和6年度全国学力・学習状況調査の概要

○調査期日 令和6年4月18日（木）

○対象者 小学校第6学年児童、中学校第3学年生徒

○集計学校数、児童・生徒数

- ・参加校 小学校 853校、中学校 418校
- ・参加者 小学校 約6万8千人、中学校 約6万人

○調査事項

- ・教科に関する調査（小学校：国語、算数 中学校：国語、数学）
- ・学校質問調査
各学校を対象とした、指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問（小学校76項目、中学校80項目）
- ・児童・生徒質問調査
調査学年の児童・生徒を対象とした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問（小学校67項目、中学校69項目）
※児童・生徒質問調査は、児童・生徒の活用するICT端末等を用いたオンラインによる回答方式で実施。

○留意事項

本調査結果は、児童・生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、また、学校における教育活動の一側面である。

<出典>令和6年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（文部科学省）

I 教科に関する調査（質問調査を含む）結果の概要

平均正答数・平均正答率

※県の平均正答率は、国から小数第1位を四捨五入した整数値で提供された。

令和6年度	小学校調査				中学校調査			
	国語		算数		国語		数学	
	(14問)		(16問)		(15問)		(16問)	
	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)
全 国	9.5	67.7	10.1	63.4	8.7	58.1	8.4	52.5
神奈川県	9.4	67	10.2	64	8.8	59	8.7	54
全国との差	-0.1	-0.7	0.1	0.6	0.1	0.9	0.3	1.5

（文部科学省令和6年度全国学力・学習状況調査の結果をもとに子ども教育支援課が作成）

本県の公立小・中学校の平均正答数・平均正答率は、全教科とも、全国公立学校の平均値と大きな差は見られなかった。

【参考】全国の前平均正答率(公立)の±10%の範囲内にあれば、全国と大きな差は見られなかったと考える。

<出典>令和6年度全国学力・学習状況調査 報告書（文部科学省 国立教育政策研究所）

小学校 国語

【調査問題の内容】学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

* ホームページにExcel データを掲載しています。
必要に応じて御活用ください。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			正答率(%)			無解答率(%)			
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	神奈川県(公立)	全国(公立)	自校	神奈川県(公立)	全国(公立)	自校	
			(1)	(2)	(3)	A	B	C										
			(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・ 聞くこと	B 書くこと	C 読むこと										
1一	学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				5-6ア				○		62.3	62.5			1.1	0.7	
1二(1)	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる	5-6イ							○		76.9	75.9			1.0	0.6	
1二(2)	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				5-6ウ				○		53.5	52.9			1.1	0.7	
1三	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				5-6ア				○		65.0	63.8			1.3	0.9	
2一(1)	高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる				5-6ア				○		81.3	80.3			1.3	0.9	
2一(2)	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものと、適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	5-6イ							○		87.7	86.9			1.2	0.9	
2二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる				5-6ウ				○		55.2	56.6			6.2	4.9	
2三ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(きょうぎ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる	5-6エ							○		41.8	43.4			18.6	13.2	
2三イ	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す(なげる)		5-6エ							○		69.2	76.0			13.6	8.0	
3一	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる	3-4カ							○		61.2	62.3			3.2	2.0	
3二(1)	「オニゴモいさん」が「ハエの女の子」にどのように話しかけていると考えられるところとして、適切なものを選択する	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる				5-6イ				○		68.0	66.9			4.0	2.6	
3二(2)	【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものと、適切なものを選択する	人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる				5-6エ				○		72.3	72.5			4.5	2.9	
3三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる				5-6エ				○		68.5	72.6			16.5	12.6	
3四	【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる	5-6オ							○		73.3	74.6			10.8	7.6	

自校のデータを
記入しましょう。

CHECK!! 自校の強みと課題を整理してみよう

① よく取り組めていた問題から、どのような授業や活動が効果的だったかを確かめよう

・問題番号【 】

普段の授業で、

ことが、そうなった理由と考えられる。

② 課題のあった問題から、弱点やつまずきを明らかにして改善策を考えよう

・正答率に注目すると…問題番号【 】

今後の授業で、

ことが、改善のために重要だと考える。

・無解答率に注目すると…問題番号【 】

今後の授業で、

ことが、改善のために重要だと考える。

「強みを伸ばしていくこと」と「課題を克服すること」の
両方に目を向けて、授業改善を図っていきましょう！



国語に関する児童の意識（質問調査より 肯定的な回答をした児童の割合）

質問番号	質問	県	全国	自校
42	国語の勉強は好きですか	62.4	62.0	
43	国語の勉強は大切だと思いますか	94.7	94.5	
44	国語の授業の内容はよくわかりますか	86.5	86.3	
45	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	93.4	93.2	
46	国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していますか	78.9	78.3	
47	国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていますか	80.2	80.0	
48	国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか	83.9	83.2	
49	国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか	85.5	84.4	
国1	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか →全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	75.6	79.1	
国2	解答時間は十分でしたか（45分）	63.0	68.5	

国語に関する質問調査結果から、どのようなことが読み取れますか。学年や教科を問わず全教職員で次の視点などで話し合い、自校の児童の傾向を共有しましょう。

・算数と比較 ・昨年度と比較 ・中学校と比較 ・他教科で担えること…



小学校 算数

【調査問題の内容】学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

* ホームページにExcel データを掲載しています。
必要に応じて御活用ください。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			正答率(%)			無解答率(%)		
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	神奈川県(公立)	全国(公立)	自校	神奈川県(公立)	全国(公立)	自校
1(1)	問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる	2(2) ア(エ)						○			63.4	62.1		0.3	0.2
1(2)	はじめに持っていた折り紙の枚数を口枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	数量の関係を、口を用いた式に表すことができるかどうかをみる	3(7) ア(フ)						○			89.9	88.5		0.4	0.3
2(1)	$350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く	計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3(3) イ(フ)						○			57.3	56.9		3.8	3.4
2(2)	除数が1/10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	5(3) ア(フ)						○			69.1	69.1		1.5	1.3
3(1)	作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ	直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる	4(2) ア(フ)						○			85.5	85.5		0.9	0.6
3(2)	円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる	5(1) ア(エ)						○			71.3	71.3		1.1	0.8
3(3)	直径2.2cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	3(1) ア(ウ) イ(フ) エ(ク) イ(フ)						○			37.7	36.5		12.0	9.8
3(4)	五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く	角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	5(2) ア(フ) イ(フ)						○			70.1	72.0		2.3	1.8
4(1)	$540 \div 0.6$ を計算する	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる	5(3) ア(イ)						○			68.4	70.1		4.1	3.1
4(2)	3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる				5(1) イ(フ) エ(ク) イ(フ)			○			74.4	70.0		4.0	3.3
4(3)	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる				5(2) ア(フ) イ(フ)			○			33.1	31.0		2.8	2.4
4(4)	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	速さの意味について理解しているかどうかをみる				5(2) ア(フ)			○			56.0	54.1		5.4	4.6
5(1)	円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる				5(1) ア(フ)			○			79.4	80.8		2.3	1.8
5(2)	示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる				3(1) ア(フ)			○			73.7	73.3		4.8	3.9
5(3)	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる				3(1) イ(フ) エ(ク) ア(フ)			○			44.0	44.0		14.5	12.6
5(4)	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式を表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる	2(1) イ(フ)			3(1) ア(フ)			○			50.8	49.3		4.8	4.0

自校のデータを
記入しましょう。

CHECK!! 自校の強みと課題を整理してみよう

① よく取り組めていた問題から、どのような授業や活動が効果的だったかを確かめよう

・問題番号【 】

普通の授業で、

ことが、そうなった理由と考えられる。

② 課題のあった問題から、弱点やつまづきを明らかにして改善策を考えよう

・正答率に注目すると…問題番号【 】

今後の授業で、

ことが、改善のために重要だと考える。

・無解答率に注目すると…問題番号【 】

今後の授業で、

ことが、改善のために重要だと考える。

「強みを伸ばしていくこと」と「課題を克服すること」の
両方に目を向けて、授業改善を図っていきましょう！



算数に関する児童の意識（質問調査より 肯定的な回答をした児童の割合）

質問番号	質問	県	全国	自校
50	算数の勉強は好きですか	61.6	61.0	
51	算数の勉強は大切だと思いますか	94.8	94.6	
52	算数の授業の内容はよくわかりますか	81.2	82.1	
53	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	94.2	94.1	
54	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	78.1	77.9	
55	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	82.9	83.3	
56	算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか	64.2	63.6	
57	算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか	84.9	84.6	
算1	今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか →全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	76.1	78.7	
算2	解答時間は十分でしたか（45分）	84.9	84.2	

算数に関する質問調査結果から、どのようなことが読み取れますか。学年や教科を問わず全教職員で次の視点などで話し合い、自校の児童の傾向を共有しましょう。

・国語と比較 ・昨年度と比較 ・中学校と比較 ・他教科で担えること…



中学校 国語

【調査問題の内容】学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

* ホームページにExcel データを掲載しています。
必要に応じて御活用ください。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点			正答率(%)			無解答率(%)		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			神奈川県(公立)	全国(公立)	自校	神奈川県(公立)	全国(公立)	自校
			(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	(2) 情報の扱い方に關する事項	(3) 我が国の言語文化に關する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと						
1一	話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる			1エ				○	65.0	63.2		0.5	0.4
1二	話し合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる			2ウ				○	70.8	68.5		3.5	3.5
1三	話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	1ア						○	44.3	44.0		0.5	0.5
1四	話し合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く	話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる			1オ				○	44.0	44.7		9.3	9.9
2一	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる					2ウ		○	35.7	36.3		0.6	0.5
2二	本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	2ア						○	76.3	75.2		0.6	0.6
2三	本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる					2ア		○	65.1	64.5		0.6	0.6
2四	本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる					1ウ		○	44.7	42.6		7.7	8.4
3一	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる			1ア				○	82.8	81.4		0.7	0.7
3二	物語の下書きについて、文中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する	文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる	2オ						○	57.5	53.8		1.0	1.0
3三	漢字を書く(みちちりた)	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2ウ						○	66.0	68.8		11.5	10.2
3四	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる					2ウ		○	50.9	49.3		14.4	15.0
4一	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する	表現の技法について理解しているかどうかをみる	1オ						○	56.5	54.9		1.7	1.8
4二	短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える	短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる					1イ		○	48.5	48.3		3.2	3.4
4三	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解しているかどうかをみる		1エ(イ)					○	74.8	75.6		2.2	2.3

自校のデータを記入しましょう。

CHECK!! 自校の強みと課題を整理してみよう

① よく取り組めていた問題から、どのような授業や活動が効果的だったかを確かめよう

・問題番号【 】

普通の授業で、

ことが、そうなった理由と考えられる。

② 課題のあった問題から、弱点やつまづきを明らかにして改善策を考えよう

・正答率に注目すると…問題番号【 】

今後の授業で、

ことが、改善のために重要だと考える。

・無解答率に注目すると…問題番号【 】

今後の授業で、

ことが、改善のために重要だと考える。

「強みを伸ばしていくこと」と「課題を克服すること」の
両方に目を向けて、授業改善を図っていきましょう！



国語に関する生徒の意識（質問調査より 肯定的な回答をした生徒の割合）

質問番号	質問	県	全国	自校
42	国語の勉強は好きですか	66.2	64.3	
43	国語の勉強は大切だと思いますか	94.4	93.9	
44	国語の授業の内容はよく分かりますか	83.8	82.7	
45	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.3	90.6	
46	国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解していますか	80.5	78.7	
47	国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめていますか	81.5	80.5	
48	国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか	78.9	76.7	
49	国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈していますか	83.6	82.0	
国1	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか →全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	72.1	72.0	
国2	解答時間は十分でしたか（50分）	78.0	74.5	

国語に関する質問調査結果から、どのようなことが読み取れますか。学年や教科を問わず全教職員で次の視点などで話し合い、自校の生徒の傾向を共有しましょう。

・数学と比較 ・昨年度と比較 ・小学校と比較 ・他教科で担えること…



中学校 数学

【調査問題の内容】学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

* ホームページにExcel データを掲載しています。必要に応じて御活用ください。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			正答率(%)		無解答率(%)		
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	神奈川県(公立)	全国(公立)	自校	神奈川県(公立)	全国(公立)
1	nを整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれnを用いた式で表す	連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	2(1) ア(7)				○		43.3	34.8		12.4	14.3	
2	等式 $6x + 2y = 1$ を y について解く	等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる	2(1) ア(2)				○		54.8	52.5		9.3	9.7	
3	正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ	回転移動について理解しているかどうかをみる		1(1) ア(4)			○		69.7	68.3		0.4	0.3	
4	一次関数 $y = ax + b$ について、 $a = 1$ 、 $b = 1$ のときのグラフに対して、bの値を変えずに、aの値を大きくしたときのグラフを選ぶ	一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる			2(1) ア(7)		○		65.9	65.3		0.8	0.7	
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる				2(2) ア(4)	○		73.7	73.1		4.1	4.2	
6(1)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に入る整数の和が□に入れた整数の和の2倍になる整数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる					○		90.8	90.2		2.5	2.5	
6(2)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる					○		39.7	35.9		20.7	23.5	
6(3)	正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、□に入れた整数の和について予想できることを説明する	統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる					○		43.0	41.8		28.9	29.6	
7(1)	障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10cmの位置から進んだ距離の最頻値を求める	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる				小6 (1) ア(7)	○		76.1	74.3		6.0	5.8	
7(2)	車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる					○		26.6	25.9		29.6	29.4	
7(3)	車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる					○		46.2	48.5		1.0	0.9	
8(1)	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる				2(1) ア(7)	○		84.1	83.4		0.8	0.8	
8(2)	18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる				2(1) イ(4)	○		19.4	17.1		16.5	16.4	
8(3)	結衣さんがかけたグラフから、18Lの灯油を使い切るような「強」と「弱」のストーブの設定の組み合わせとその使用時間を書く	グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる				2(1) ア(7)	○		77.7	76.9		4.0	3.8	
9(1)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $\angle AQC = \angle BPC$ であることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる				2(2) イ(4)	○		29.4	25.8		31.4	33.6	
9(2)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる				2(2) ア(4) イ(7)	○		28.3	26.7		4.7	4.5	

自校のデータを記入しましょう。

CHECK!! 自校の強みと課題を整理してみよう

① よく取り組めていた問題から、どのような授業や活動が効果的だったかを確かめよう

・問題番号【 】

普段の授業で、

ことが、そうなった理由と考えられる。

② 課題のあった問題から、弱点やつまずきを明らかにして改善策を考えよう

・正答率に注目すると…問題番号【 】

今後の授業で、

ことが、改善のために重要だと考える。

・無解答率に注目すると…問題番号【 】

今後の授業で、

ことが、改善のために重要だと考える。

「強みを伸ばしていくこと」と「課題を克服すること」の
両方に目を向けて、授業改善を図っていきましょう！



数学に関する生徒の意識（質問調査より 肯定的な回答をした生徒の割合）

質問番号	質問	県	全国	自校
50	数学の勉強は好きですか	59.2	57.2	
51	数学の勉強は大切だと思いますか	86.5	87.2	
52	数学の授業の内容はよく分かりますか	77.7	75.7	
53	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	77.2	78.5	
54	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	57.8	57.2	
55	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	78.3	78.1	
56	数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか	47.8	46.0	
57	数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか	76.5	77.0	
数1	今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか →全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	48.8	50.0	
数2	解答時間は十分でしたか（50分）	77.5	73.6	

数学に関する質問調査結果から、どのようなことが読み取れますか。学年や教科を問わず全教職員で以下の視点などで話し合い、自校の生徒の傾向を共有しましょう。

・国語と比較 ・昨年度と比較 ・小学校と比較 ・他教科で担えること…



Ⅱ かながわの学びの充実・改善のための重点事項

1 子どもたちの学びに対する意欲の向上 (p. 15～)



- ※クロス集計に着目すると、「各教科の勉強が好き」「先生が自分のよいところを認めてくれている」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答している児童・生徒ほど、各教科の調査問題の平均正答率がそれぞれ高い傾向にあります。

POINT!!

児童・生徒のよい点や努力を積極的に認めるとともに、多様な意見を認め合えるような授業づくりや学級づくりに取り組んでいくことが重要です。

2 自分の考えを文章等で表現する力の向上 (p. 19～)



- 自分の考えを文章等で書く問題の正答率は、他の問題と比較して低い傾向にあり、無解答率は、選択式や短答式に比べ、特に中学校では高い傾向にあります。また、解答類型の反応率から、理由や根拠を基に、自分の考えを分かりやすく書き表すことに「つまずき（課題）」がある様子が分かります。
- 学級風土づくりに関わる児童・生徒質問調査の結果を見ると、全体として肯定的であることは認められるものの、「1（当てはまる）」の数値は高くない様子が見られます。

POINT!!

- 自分の考えを文章等で表現するには、書く材料を集めたり、考えを形成したり、構成を考えたりする必要があります。児童・生徒がその過程のどこでつまずいているのかを把握し、授業を行うことが重要です。
- 子どもたちが、自信をもって自分の考えを文章にしたり発表したりできるためには、お互いを敬い、認め励まし合えるあたたかな学級風土づくりが不可欠です。

※クロス集計とは、複数項目の結果を掛け合わせて集計する方法です。ある設問に対する選択肢ごとの回答に対し、もう一方の設問の回答がどのような割合だったかを調べることができるため、より詳細な分析を行うことができます。
(右ページ参照)





3 授業改善の推進 (p. 23~)

- 課題解決に向けて自分から考えたり、他者との話し合い等を通じて考えの深まりや新しい考え方への気付きを実感したりしている児童・生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られます。
- 授業等での ICT の活用頻度は年々高まっています。また、ICT 活用の効力感に関して肯定的に回答した児童・生徒ほど各教科の正答率が高い傾向が見られます。
- 主体的・対話的で深い学びに取り組んだ児童・生徒は、家庭の社会経済的背景 SES (Socio-Economic Status) が低い状況にあっても、各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

POINT!!

各学校は、日々の教育活動の一層の充実を目指し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に引き続き取り組んでいくことが重要です。

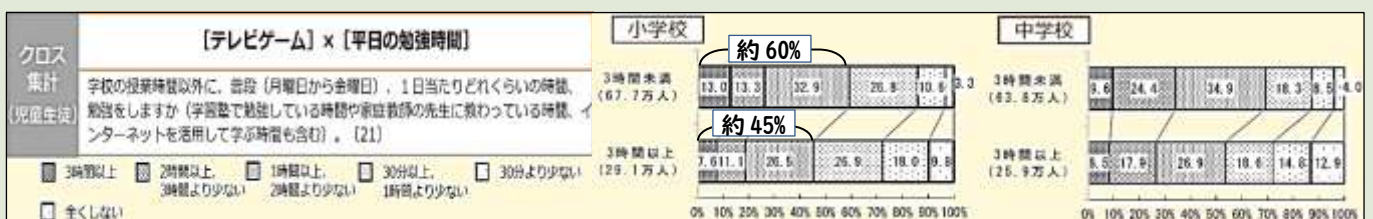
4 地域・家庭と学校が連携・協働した教育活動の推進 (p. 29~)



- 教育活動に必要な人的・物的資源を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら指導計画を作成している学校の割合が、徐々にコロナ禍以前の状況に戻りつつあります。
- 地域や社会への貢献に関する質問に、肯定的に回答している児童・生徒の割合は、昨年度より高まっている一方、小学生に比べて中学生の割合が低い傾向にあります。

POINT!!

各学校は、地域や家庭と連携しながら、児童・生徒が地域や社会に関わろうとする（社会参画）意識を育む指導計画や教育課程を編成・実施していくことが重要です。



「ゲーム時間が長いほど、平日の勉強時間が短い」傾向が読み取れます。

＜出典＞令和6年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）
（文部科学省 国立教育政策研究所）

Ⅲ 学びの充実・改善のヒント

「かながわの学びの充実・改善のための重点事項」で示した4つの項目について、教科に関する調査や質問調査のデータをもとに、「学びの充実・改善のヒント」をまとめました。



1 子どもたちの学びに対する意欲の向上

【児童・生徒質問調査】（肯定的な回答をした児童・生徒の割合）

質問番号	質問	小学校	中学校	自校		
				4月	月	月
国語	国語、算数・数学、理科、英語の勉強は好きですか。 (児童 42、50、58、61 生徒 42、50、58)	62.4	66.2			
算数 数学		61.6	59.2			
理科		83.3	67.0			
英語		68.3				

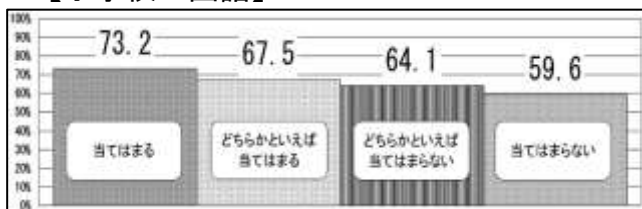
【活用例】継続的に質問調査を行い、数値を記入することで、児童・生徒の変容を見ていきましょう。また、調査対象学年だけでなく、全学年で取り組んでみましょう。

クロス集計してみると...

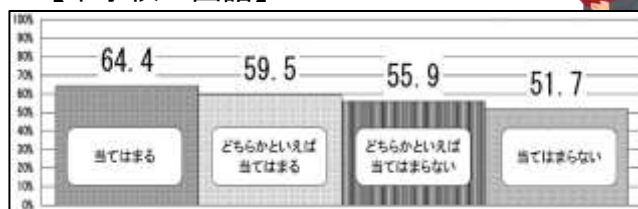
(42)国語の「勉強は好きですか」と小・中学校の各教科に関する調査問題の平均正答率とのクロス集計



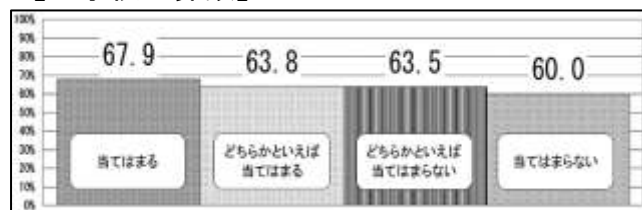
【小学校 国語】



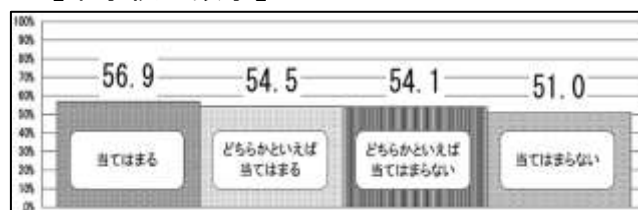
【中学校 国語】



【小学校 算数】



【中学校 数学】



→国語が好きと感じている児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

※算数や数学の調査でも同様の傾向が見られました。

【児童・生徒質問調査】（肯定的な回答をした児童・生徒の割合）

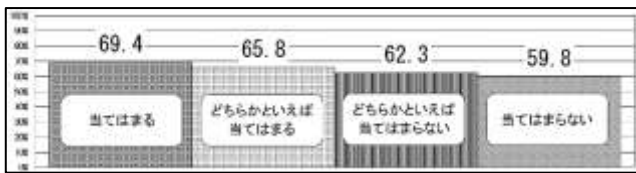
質問番号	質問	小学校	中学校	自校		
				4月	月	月
児童 生徒 (9)	自分には、よいところがあると思いますか。	84.5	82.8			
児童 生徒 (10)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	89.2	90.4			

クロス集計してみると...

児童・生徒質問調査(10)「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」と

小・中学校の各教科に関する調査問題の平均正答率とのクロス集計

【小学校 国語】



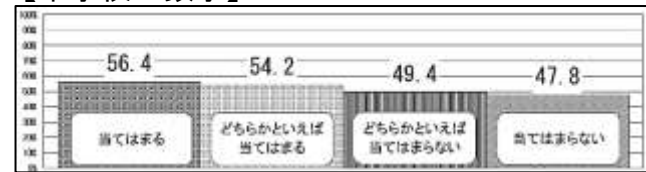
【中学校 国語】



【小学校 算数】



【中学校 数学】

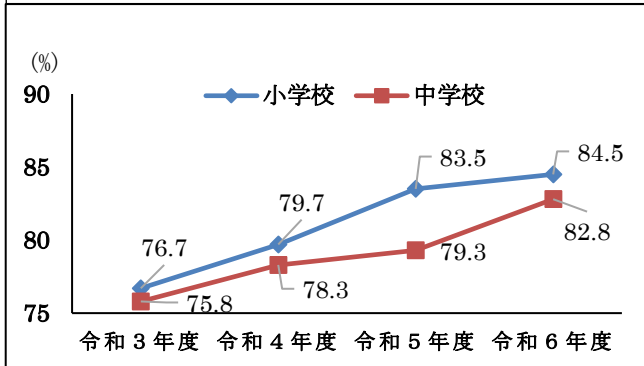


→先生方に認められていると感じている児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

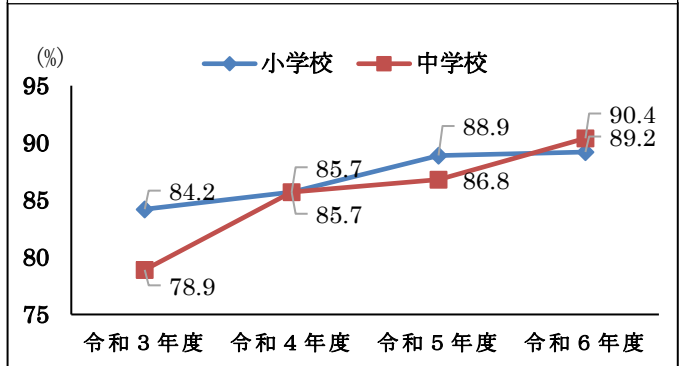
経年変化を見ると...

児童・生徒質問調査(9)(10)の経年変化に注目すると、先生方に認められていると感じ、自己肯定感を得られている子どもたちの割合が年々増えていることが分かります。

(9)自分には、よいところがあると思いますか。



(10)先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



先生方のあたたかな声かけや振る舞いによって、子どもたちは学校生活や授業に対し、どんどん前向きに取り組めるようになっていきます。



【学校質問調査】 【児童・生徒質問調査】 (肯定的な回答をした学校、児童・生徒の割合)

質問番号	質問	小学校	中学校	自校		
				4月	月	月
学校(28)	調査学年の児童・生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか。	92.7	96.9		予想	予想
児童生徒(17)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	76.9	76.5			

クロス集計してみると…

児童・生徒質問調査(17)「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」と

小・中学校の各教科問題の平均正答率とのクロス集計

【小学校 国語】



【中学校 国語】



【小学校 算数】



【中学校 数学】



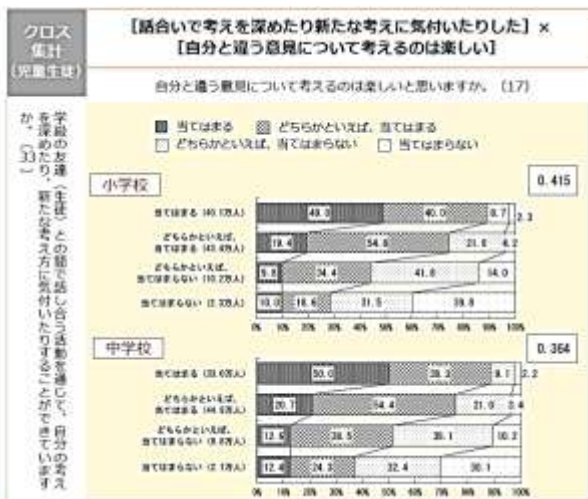
→自分と異なる意見について考えることに楽しさを感じている児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

- クロス集計に着目すると、「各教科の勉強が好き」「先生が自分のよいところを認めてくれている」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答している児童・生徒ほど、各教科の調査問題の平均正答率がそれぞれ高い傾向にあります。

ここに注目!

文部科学省の分析によると、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びに関する回答と挑戦心・自己有用感・幸福感等に関する回答との間には相関関係が見られるとされています。

つまり、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善は、児童・生徒の挑戦心・自己有用感・幸福感等の高まりに好影響を与えていることが傾向として見られます。



<出典>令和6年度全国学力・学習状況調査の結果(概要) (文部科学省・国立教育政策研究所)

POINT!!

児童・生徒のよい点や努力を積極的に認めるとともに、多様な意見を認め合えるような授業づくりや学級づくりに取り組んでいくことが重要です。

「子どもたちの学びに対する意欲の向上」に関する充実・改善のヒント

児童・生徒が多様な意見を認め合える取組の事例



子どもたちが多様な意見を互いに認め合えるようになるために、どのようなことを意識していますか？

- 教員自身が子どもたちの多様な意見を否定せず、受容することです。例えば、子どもたちの発言やアイデアに対して、うなずいたり、「いいね！」「すごいね！」「なるほどね！」と相づちを入れたりすることなどであり、特別なことを行わなければいけないということではありません。
- 努力を認められることで、子どもたちは自分の意見を安心して発信したり、他の人の意見を大切にす態度や行動を身に付けたりすることができるようになりますと考えます。



発表が苦手な子どもへは、どのような手立てを講じていますか？

- 発言に限らず、その子のノートの記述やイラストなど、一人ひとりの強みを生かした発信から始めて、その子の考えていることを周りの子どもたちに伝えるようにしています。
- 自分の考えが伝わることの楽しさを味わう経験を通して、考えを伝えることに自信がもてるようにしていくことが大切です。



授業では、具体的にどのような工夫をしていますか？

- 一人ひとりの子どもの、その子なりの参加のしかたを認め、すべての子どもに教室が自分らしく居られる場所だと実感できるように努めています。また、気になる子どもの出番や役割をどのようにするのかを想定しておくことも、授業づくりにおいて欠かせません。
- 授業の実際としては、ペア対話の場面を多く設けるなど、子どもたち同士の意見交換を大切にすることです。みんなの前で発表するよりもハードルが低いため本音が出やすいこともあります。子どもが自らの意思で取り組む場面のウエイトを大きくすることで、子ども自身が学びの充足感を味わえることにつながるからです。



ここに注目!!

県教育委員会では、学校教育、家庭教育、地域の教育力の向上に資するため、それぞれの役割や協働した環境づくり等について広く意見交換をするシンポジウムを毎年開催しています。昨年度は、「子どものこえが作りだす豊かな学び」をテーマに、子ども・大人がそれぞれの立場で語り合いました。

子どもが学びの意欲を高めるには、子どもに寄り添い耳を傾け、子どもの理解を深めていくことが大切です。

ぜひ、ご参加ください♪



(関連サイトへは、p.36のURL および二次元コードから)



2 自分の考えを文章等で表現する力の向上



◆【教科に関する調査】の記述式の問題に目を向けてみると…

	問題番号	出題の趣旨	小学校		中学校		自校	
			正答率	無解答率	正答率	無解答率	正答率	無解答率
国語	2 二	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。	55.2	6.2	/	/		
	3 四	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる。	/	/	50.9	14.4		
算数 数学	4 (3)	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。	33.1	2.8	/	/		
	7 (2)	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。	/	/	26.6	29.6		

例えば「国語」の解答類型を見ると…

※解答類型とは、各問題についての正答、予想される解答などの解答状況を分類し整理したものです。他校種、他教科でも同様に、解答類型の反応率を見ることで、どこでつまづいているのかを把握する一助とすることができます。



【小学校 教科調査問題(国語)より】 [R6 小・国語問題]

2二
(正答の条件)
次の条件を満たして解答している。
①「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書いている。
②【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書いている。
③60字以上、100字以内で書いている。

解答類型	反応率
1 条件①、②、③、全て○。【正答】	55.2
2 条件①、②は○。条件③は×	0.9
3 条件①は○。条件②は×	0.9
4 条件②は○。条件①は×	32.7
99 上記以外の解答	4.1
0 無回答	6.2

解答類型4の反応率が高くなっています。【取材メモ】から、言葉や文を取り上げて書くことはできていますが、「たてわり遊び」のよさについて考えたことと結び付けて書き表すところに「つまづき(課題)」があると考えられます。

【中学校 教科調査問題(国語)より】 [R6 中・国語問題]

3四
(正答の条件)
次の条件を満たして解答している。
①アに、「あの日から数日が過ぎた。」に適切に続くように、表現を工夫して物語の最後の場面を書いている。
②イに、アのように表現することで、「僕」の次の出番への期待を伝えるうえで、どのような効果があるのかを具体的に書いている。

解答類型	反応率
1 条件①、②、全て○。【正答】	50.9
2 条件①は○。条件②は×	25.6
3 条件②は○。条件①は×	1.2
99 上記以外の解答	7.9
0 無回答	14.4

解答類型2の反応率が高くなっています。物語が適切に続くように表現を工夫して最後の場面を書くことはできていますが、その効果を具体的に説明するところに「つまづき(課題)」があると考えられます。

- 自分の考えを文章等で書く問題の正答率は、他の問題と比較して低い傾向にあり、無解答率は、選択式や短答式に比べ、特に中学校では高い傾向にあります。また、解答類型の反応率から、理由や根拠を基に、自分の考えを分かりやすく書き表すことに「つまづき(課題)」がある様子が分かります。

「自分の考えを文章等で表現する力の向上」に関する充実・改善のヒント

解答類型から考える、授業の工夫について



解答類型から、考えを表現する一連の過程のどこでつまづいているのかを把握したら、授業にどのようにいかしていけばよいですか？

単元の目標や計画を立てるときに、「書く材料を集める」「考えを形成する」「構成を考える」という一連の過程のどこに焦点を当てて指導するかを明確にすることが大切です。



授業は、どのような流れになりますか？

○例えば、p. 19の解答類型から、「理由や根拠を基に自分の考えを分かりやすく書き表すこと」に焦点を当てた授業が考えられます。そのためには、お互いに書いた文章を読み合っ、理由や根拠を基に自分の考えが述べられているかを確認め合う場面を設定することが効果的です。

○小学校では、「事実」と「考え」を区別して書いたり、文末表現を工夫したりすることで、伝わりやすい文章になることを児童自身が気付けるように促していきます。

○中学校では、用いた語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを確認めながら、より効果的な語句や表現を選ぶことも重要です。

○小・中学校とも共通していることは、自分の考えを文章等で表現する力は、読み手や聞き手などの「受け手」からの評価で向上していく、ということです。振り返りを通して、子どもたちの表現を質的に高めるような授業づくりが大切です。



ここに注目!!

「自分の考えを文章等で表現する」過程でつまづき（課題）のある子どもに対し、どのような手立てが考えられるか、「報告書」の「授業アイデア例」を参考に指導の在り方を確認してみましょう。



取材メモから縦割り活動について書きたいことを選べたけれど、縦割り活動の「よさ」(考え)を書くにはどうしたらよいか…。

【伝えたいこと】

縦割り活動の「よさ」

伝えたい縦割り活動の「よさ」を、子どもがどのように考えているかを、【学校のよさを書き出したメモ】から確かめるよう促します。また、取材メモから書きたいことを選択するときも、「よさ」と関係付けて選択できているか確認します。

伝えたいことを明確にする過程でつまづいているため考えを表現することができない

【学校のよさを書き出したメモ】



【取材メモ】



ほかにも、子どもが、取材した内容から書きたいことを選ぶ過程で、伝えたいことや相手を意識し、優先順位をつけて選ぶように指導することも重要です。



<出典> 「令和6年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校国語」 p. 46、47、48

POINT!!

- 自分の考えを文章等で表現するには、書く材料を集めたり、考えを形成したり、構成を考えたりする必要があります。児童・生徒がその過程のどこでつまづいているかを把握し、授業を行うことが重要です。

つまづきを分析して、指導に生かそう！



学習指導要領や学校教育目標と、解答類型から見えてきた自校の子どもたちの実態を比べて、「育てたい姿」を明確化することが大切です。

- 教科だけでなく、学級、学年、学校、そして小・中9年間…さまざまな単位で考えた「育てたい姿」について話し合うことは、ゴールイメージやそれに向けたプロセスの共有へとつながります。
- 「育てたい姿」について考えたあとは、その実現に向けて何ができるかをチームとして、また各自が考え、日々の指導に生かしていけるとよいですね。もちろん、取組状況がどうかを定期的に点検して、必要な改善を試みることも大切です。



「育てたい姿」とその実現に向けてできることを整理してみよう！

学校教育目標に基づいて、
私たちが考えた「育てたい姿」は、

です。

その実現に向けて、私（たち）にできることは、

です。



◆【児童・生徒質問調査】の学級内での関わりについての各問いに目を向けてみると…

質問番号	質問	小学校	中学校	自校
17	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	76.9 (31.3)	76.5 (30.3)	
18	友達関係に満足していますか。	90.9 (61.6)	89.7 (52.0)	
37	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。	91.5 (46.3)	92.4 (43.8)	
39	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。	83.3 (33.4)	86.7 (33.8)	
40	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。	81.1 (32.4)	78.2 (26.7)	
41	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。	87.1 (44.5)	90.8 (45.2)	

※ () は、「1 (当てはまる)」と回答した児童・生徒の割合

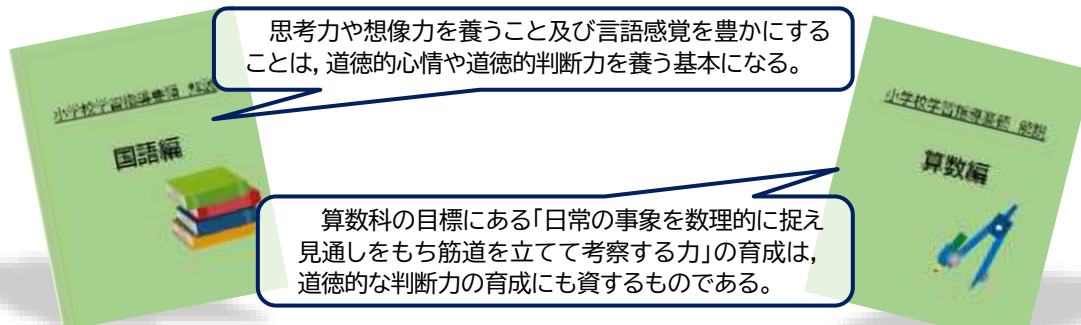
- 学級風土づくりに関わる児童・生徒質問調査の結果を見ると、全体として肯定的であることは認められるものの、「1 (当てはまる)」の数値は高くない様子が見られます。

ここに注目!!

自分の気持ちや考えを文章にしたり発表したりしても、周囲から批判されたり責められたりしてしまうような学級では、きっと表現することに臆病になってしまうことでしょう。各教科等と「特別の教科 道徳」の関連を意識しながら適切な指導を行うことで、子どもたちは物事を多面的・多角的に捉え自分の考えを構築する力や、他者とのよりよい関わり方を学び、互いを認め合える豊かな心を育むことができます。

多様な考えを受容し合えるあたたかな学級風土づくりは、子どもたちの豊かなアウトプットの強く大きな支えとなります。

例えば「小学校学習指導要領解説」の国語編や算数編には、次のように示されています。



<出典> 小学校学習指導要領 解説 国語編 p.161、小学校学習指導要領 解説 算数編 p.328 (文部科学省)

POINT!!

- 子どもたちが、自信をもって自分の考えを文章にしたり発表したりできるためには、お互いを敬い、認め励まし合えるあたたかな学級風土づくりが不可欠です。

3 授業改善の推進



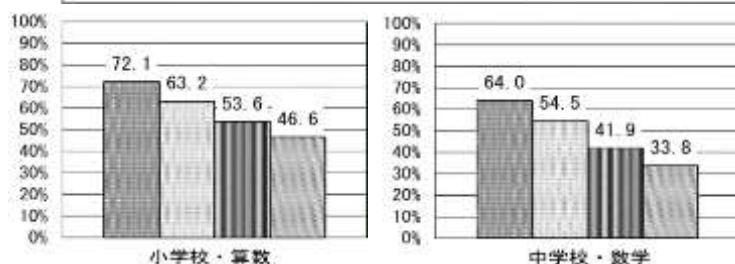
◆「児童・生徒質問調査」「学校質問調査」の主体的・対話的で深い学びに関わる各問いに目を向けてみると…

質問番号	質問	小学校	中学校	自校		
				4月	月	月
学校(25)	調査対象学年の児童・生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。	81.9	90.1		予想	予想
児童生徒(30)	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	83.3	81.6			

クロス集計してみると…

児童・生徒質問調査(30)「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」と小・中学校の各教科問題の平均正答率とのクロス集計

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない



⇒課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると実感している児童・生徒ほど、算数・数学の平均正答率が高い傾向が見られます。

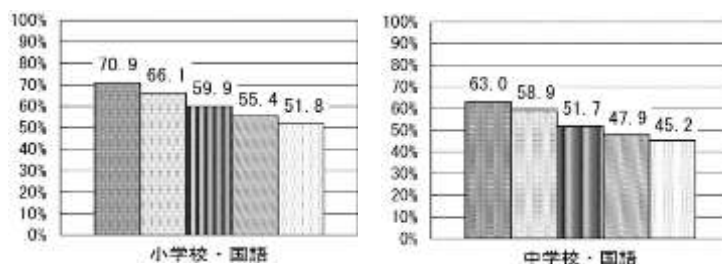
※小・中学校の国語の調査でも同様の傾向が見られました。

質問番号	質問	小学校	中学校	自校		
				4月	月	月
学校(32)	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、授業において、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。	96.0	96.4		予想	予想
児童生徒(33)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	86.3	85.5			

クロス集計してみると…

児童・生徒質問調査(33)「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」と小・中学校の各教科問題の平均正答率とのクロス集計

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □5. 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない



⇒話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると実感している児童・生徒ほど、国語の平均正答率が高い傾向が見られます。

※小学校・算数、中学校・数学の調査でも同様の傾向が見られました。

- 課題解決に向けて自分から考えたり、他者との話し合い等を通じて考えの深まりや新しい考え方への気付きを実感したりしている児童・生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られます。

「授業改善の推進」に関する充実・改善のヒント

「主体的・対話的で深い学び」を促す事例



子どもたちが学びの主体となるように、授業づくりでどのようなことを心がけていますか？

- 例えば、自分が導き出した答えや考え方が妥当だったのかを改めて検討するために、「揺さぶる」場面を意識して設定しています。
- よりよい方法を知り、自分の中で最良の方法だと決めつけていたことを見つめ直す場面や、予想が裏切られたり当たり前だと思っていたことが覆ったりする経験を味わうことは、主体的に学習に取り組むきっかけとなり、新たな問いを生み出すことにもつながります。



なるほど！子どもたちが学びの主体になるように、教員が意図的・計画的にそのような仕掛けや工夫をすることが必要なんですね！

ここに注目!!

教員からの問いかけは、主体的・対話的で深い学びを実現するための工夫のひとつです。

「報告書」では、授業の改善・充実を図る際の参考となるように「授業アイデア例」が示されています。子どもたちが学びの主体となり、有意義な対話や学びの深まりが生まれるように、どのように問いかけているのかに注目して見てみましょう。



四角錐の場合の「うまくいかない!」とはどういうことですか。

児童・生徒が自らの考えや思いがどのようなものであるかを客観的に自覚できるように、問いの「見える化」を図る



2つの証明を見比べて、<条件>を変えても変わらないところ、<条件>を変えたことに伴って変わったところを挙げ、気付いたことを話し合ってみましょう。

何に対して考えればよいかの手がかりを示し、児童・生徒が学びどころを意識できるように「焦点化」を図る



今日は、ストーブの灯油をちょうど使い切るための設定の仕方をグラフを用いて考えてきましたね。分かったことや大切だと思った考え方を振り返ってみましょう。

児童・生徒がどのように考えたり学んだりしてきたかを整理できるように、学習過程の「共有化」を図る

<出典> 「令和6年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校数学」 p. 46、69、79



○児童・生徒質問調査(30)「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の経年変化に注目すると、小・中ともにその割合の高まりが確認できます。

○日ごろより先生方が、意図的・計画的に主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に取り組まれていることが分かります！

※質問(33)は新規質問のため、経年変化なし



お互いの授業実践を振り返ってみよう！

p. 24 の「主体的・対話的で深い学び」を促す事例を参考に、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善について、自分のこれまでの授業実践を振り返りましょう。



子どもたちが充実した対話を行えるように、どのようなことを意識して授業づくりを行っていますか？

どの単元(題材)で何を扱う際に、どのように対話を盛り込んで授業を行ったのか、具体的な事例を挙げてその工夫を教えてください！

○教科 _____

○学年・単元(題材) _____

○対話のテーマ _____

○どのようなことを意識して工夫したのか(書き込みましょう)



子どもたちが学びを深め、その深まりが実感できるように、どのようなことを意識して授業づくりを行っていますか？

どの単元(題材)で何を扱う際に、どのような工夫を施して授業を行ったのか、具体的な事例を挙げて教えてください！

○教科 _____

○学年・単元(題材) _____

○学びの深まりを生み出すための工夫(書き込みましょう)



やはり、主体的・対話的で深い学びの実現には、意図的・計画的な授業改善が必要なのですね！

同じ教科の先生同士だけではなく、他教科の先生とも共有することで、その教科が資質・能力の育成をどのように目指しているのか、学ぶことができます！

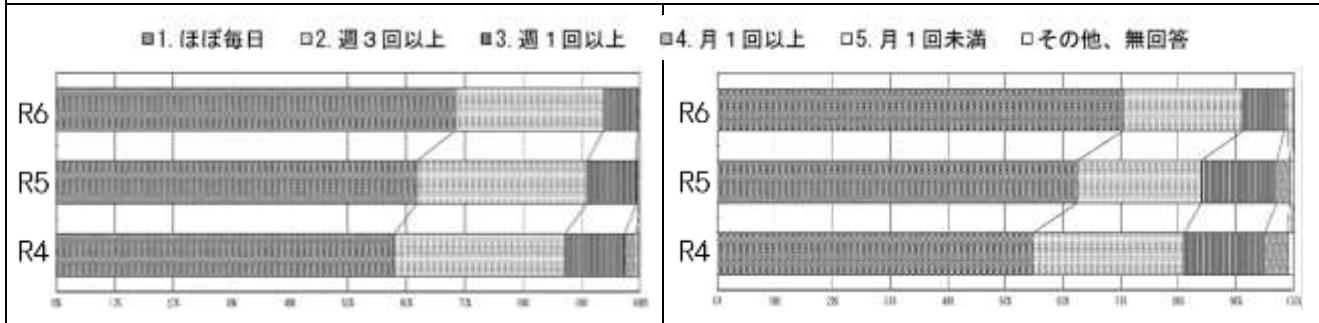


◆ICT を活用した学習状況に関わる各問いに目を向けてみると…

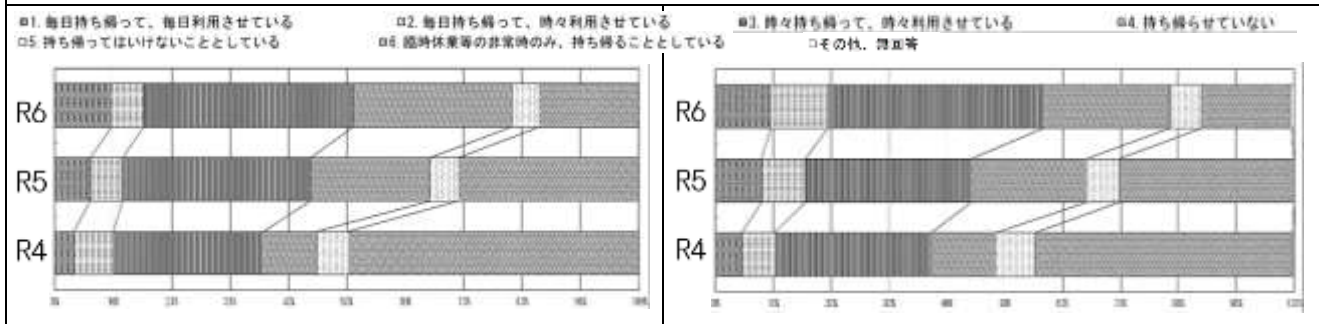


【学校質問調査】

調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、児童・生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか。([左] 小56、 [右] 中60)



児童・生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。([左] 小64、 [右] 中68)



それぞれの経年推移から、ICT 活用の頻度の高まりが確認できます。ただし、ICT 活用が目的化されないように、どのような教育効果もたらされているのかを分析することが重要です。

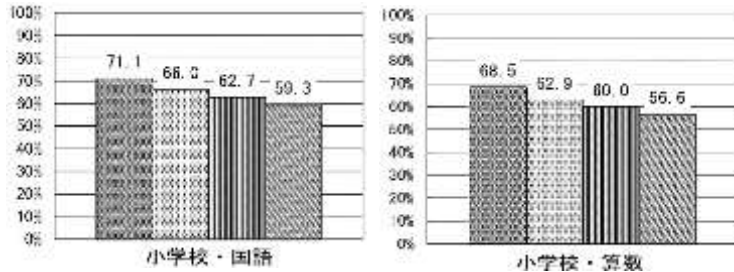


クロス集計してみると…

5年生 (1、2年生) までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

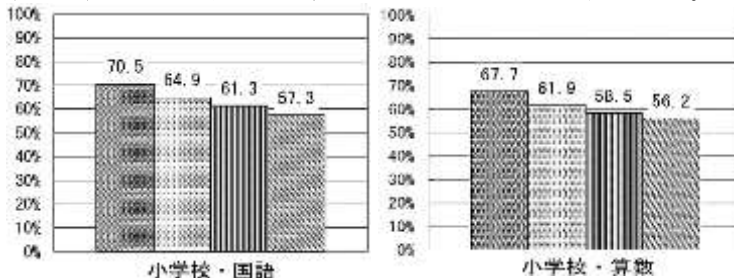
- 1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない

(28-5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。



⇒ICT 機器を活用することで「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」と実感している児童ほど、国語・算数の平均正答率が高い傾向が見られます。

(28-6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。



これは、ICT 機器活用の効力感に関する他の質問でも正答率が高い傾向が見られます。

※中学校の国語、数学の調査でも同様の傾向が見られました。



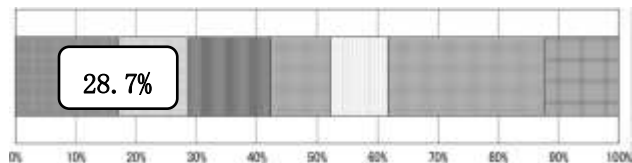
- 授業等での ICT の活用頻度は年々高まっています。また、ICT 活用の効力感に関して肯定的に回答した児童・生徒ほど各教科の正答率が高い傾向が見られます。

【学校質問調査】

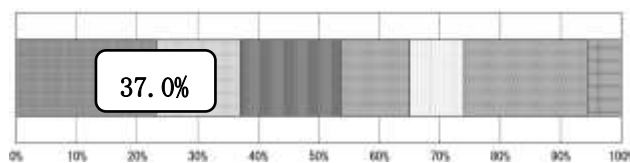
児童・生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、次のような用途でどの程度活用していますか。([左] 小 65、 [右] 中 69)

□1. ほぼ毎日 □2. 週3回以上 □3. 週1回以上 □4. 月1回以上 □5. 月1回未満 □6. 活用していない □7. 該当する生徒がいない

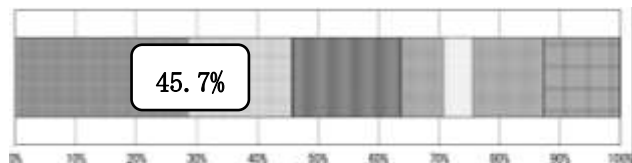
(1) 不登校児童に対する学習活動等(授業配信を含む)の支援



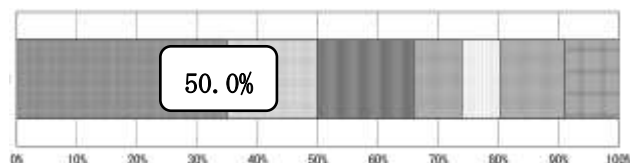
(1) 不登校生徒に対する学習活動等(授業配信を含む)の支援



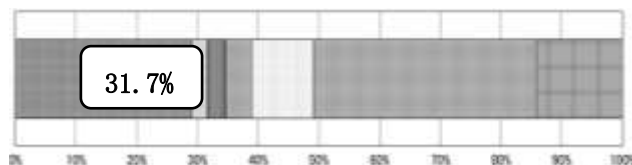
(3) 特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援



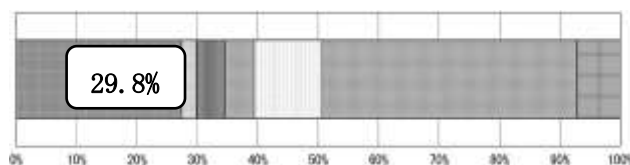
(3) 特別な支援を要する生徒に対する学習活動等の支援



(5) 児童の心身の状況の把握



(5) 生徒の心身の状況の把握



○上記の調査結果の通り、ICT の活用はさまざまな学習効果が期待できるだけでなく、例えば、心身の健康状態の把握や、不登校の児童・生徒の学習を保障することなどにも効果的です。

○子どもたちの多様なニーズに応えた支援が実現できるように、今後も ICT を適切に活用していきましょう。



ここに注目!!

令和6年8月29日付け「不登校児童生徒が欠席中に行った学習の成果に係る成績評価について(通知)」では、不登校の児童・生徒(その傾向が見られる児童・生徒も含む)の学習に対する努力を支援し、その学習の成果を適切に評価し積極的に伝えていくことの意義が明確化されました。

その通知では、具体的な取組例として、

- ・ 1人1台端末を活用して、教育支援センターや自宅から学校の授業にオンラインで参加している不登校の児童・生徒の学習成果を成績に反映
- ・ 民間のeラーニング教材を活用して教育支援センターで学習を行っている不登校の児童・生徒について、教育支援センターの職員が保護者と連携しつつ、学習状況を把握し、学校に情報提供することで、その学習成果を成績に反映

などの ICT を活用した事例も挙げられています。

学校が保護者や関係機関等と連携を密にとりながら「チーム」となって当該児童・生徒の社会的な自立を後押しし、誰一人取り残されない学びの充実を一層推進していくことが重要です。



https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1422155_00002.htm



ここに注目!!

家庭の社会的経済的背景（SES：Socio-Economic Status）が低い児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が低い傾向が見られます。しかし、文部科学省・国立教育政策研究所は「令和6年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）」にて、「『主体的・対話的で深い学び』に取り組んだ児童・生徒は、SES が低い状況にあっても、各教科の正答率が高い傾向が見られる」ことを、以下のように※箱ひげ図を用いて示しています。

【家にある本の冊数】 × 【課題の解決に向けて自分から取り組んだ】 × 【各教科の正答率】

【授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。児童生徒（30）】



- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない

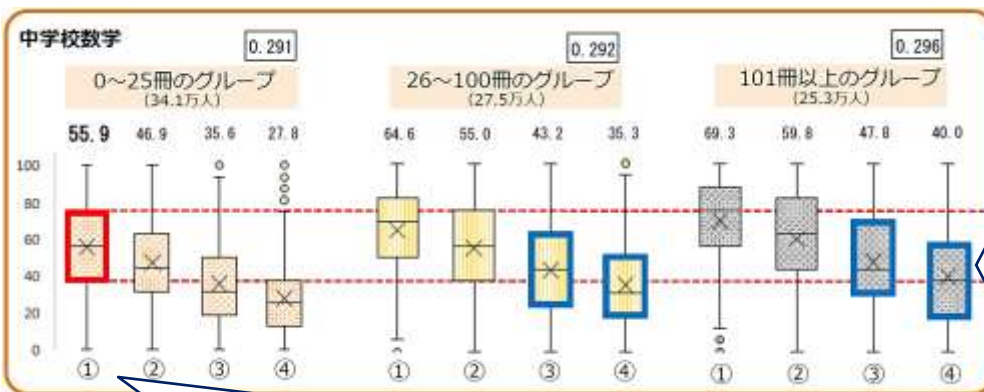


【家にある本の冊数
児童生徒（23）】



- 0~25冊
- 26~100冊
- 101冊以上

*SESの代替指標として利用



※箱ひげ図…

データのばらつき具合を表した統計図。箱が全体のデータの50%分を表しており、箱の中の線が中央値（データの真ん中の値）を、×印が平均値を示している。

中学校2年の統計領域で学習します。

例えば中学校数学では、低SESグループ（本が0~25冊）で主体的・対話的で深い学びの質問に「①」と回答した生徒の箱ひげ図の箱は、中SESグループ（本が26~100冊）で「③」「④」と回答した生徒及び高SESグループ（本が101冊以上）で「③」「④」と回答した生徒の箱より上の位置（正答率が高い位置）にある。

また、令和5年度文部科学省委託研究を行った横浜国立大学では、令和5年度の英語の調査結果から、「SES が低い場合であっても、言語活動が行われていたり、英語学習の興味・関心や授業の理解度が高かったりする場合は、英語力が高くなっており、SES の影響よりも英語授業の効果等の影響は大きい」と分析しています。

主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善は、SES との関連からも重要であることが分かります。

<参考>令和5年度文部科学省委託研究「令和5年度全国学力・学習状況調査の英語の結果を活用した専門的な分析」（受託者：横浜国立大学）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1416304_00010.html



POINT!!

各学校は、日々の教育活動の一層の充実を目指し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に引き続き取り組んでいくことが重要です。

4 地域・家庭と学校が連携・協働した教育活動の推進

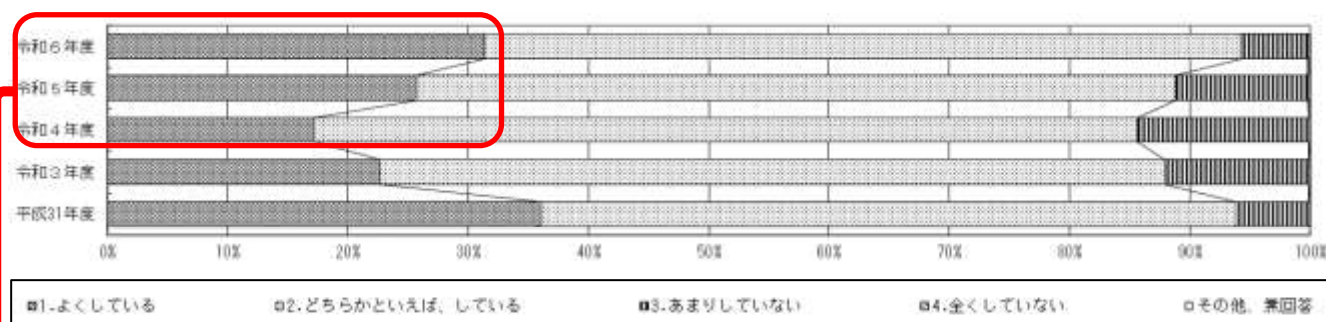


【学校質問調査】（肯定的な回答を選択した学校の割合）

	質問	小学校	中学校	自校	
				自校	自校と接続する学校
学校	児童・生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。（小・中13）	91.5	92.1		
学校	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか。（小・中14）	94.2	82.0		

経年変化を見ると…

【学校質問】（小14） 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか。



新型コロナウイルス感染症の流行により控えられていたと考えられる地域等の人的・物的資源等を活用する傾向が、徐々に以前の状況に戻りつつあると考えられます。



- 教育活動に必要な人的・物的資源を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら指導計画を作成している学校の割合が、徐々にコロナ禍以前の状況に戻りつつあります。

◆児童・生徒の地域や社会に関わる各問いに目を向けてみると…

【児童・生徒質問調査】（肯定的な回答をした児童・生徒の割合）

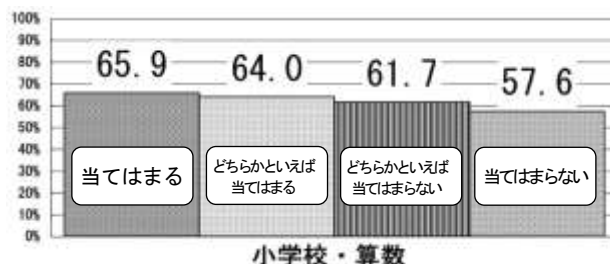
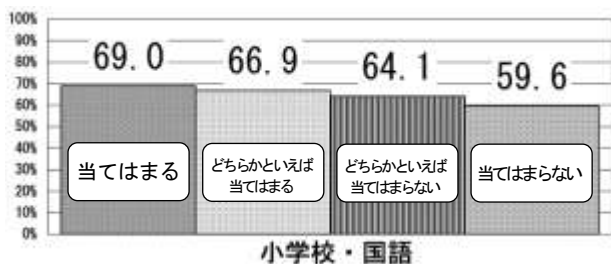
質問番号	質問	小学校	中学校	自校		
				4月	月	月
児童生徒(25)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	83.8	74.1			
児童生徒(35)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。	83.0	78.0			

クロス集計してみると…

児童・生徒質問調査(25)「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」と

小学校の各教科問題の平均正答率とのクロス集計

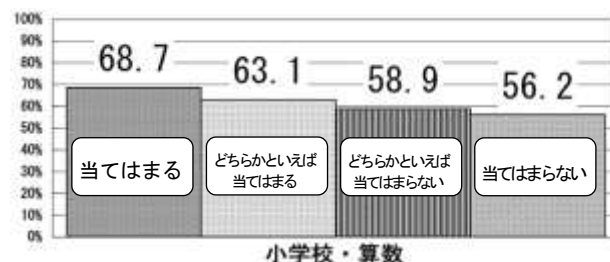
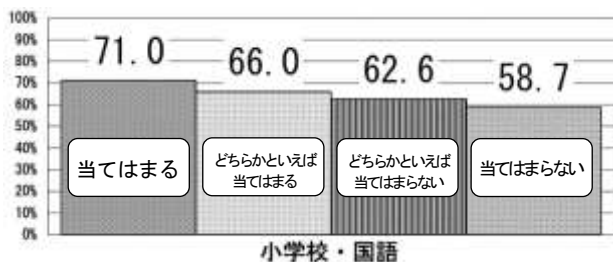
■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない



➡ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている児童ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。 ※中学校国語、数学の調査でも同様の傾向が見られました。

児童・生徒質問調査(35)「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。」と小学校の各教科問題の平均正答率とのクロス集計

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない



➡ 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり生かしたりできるとしている児童ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。 ※中学校国語、数学の調査でも同様の傾向が見られました。

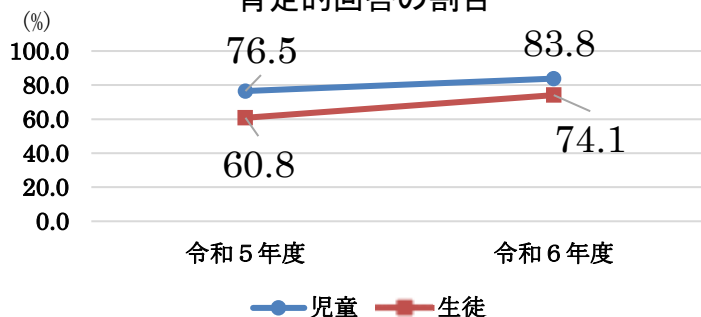
○児童・生徒質問調査(25)「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」に肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、令和5年度よりも高まっていることが分かります。

○一方、小学生に比べて中学生の割合が低い傾向が続いています。

※質問(35)は新規質問のため、経年変化なし



(25)「地域や社会をよくするために…」
肯定的回答の割合



➤ 地域や社会への貢献に関する質問に、肯定的に回答している児童・生徒の割合は、昨年度より高まっている一方、小学生に比べて中学生の割合が低い傾向にあります。

POINT!!

各学校は、地域や家庭と連携しながら、児童・生徒が地域や社会に関わろうとする(社会参画)意識を育む指導計画や教育課程を編成・実施していくことが重要です。

地域とのつながいについて話し合ってみましょう！

子どもたちの学びを充実させるために、地域で活用できる人的・物的資源としてどのような人・ものがあるでしょうか？



①すでに活用している資源…

②活用できそう・活用したい資源…

②に挙げた資源は、どのような活動、場面に生かせるでしょうか？



(具体的な活用の場面を書き込みましょう)

地域の人的・物的資源を活用するために、だれが、どのような役割を担う必要があるでしょうか？



(だれ) _____ が

(資源の出所) _____ に対して、

(具体的な方法) _____

といった働きかけをする必要があります。

ここに注目!!

県教育委員会では、PTA 研修会をはじめとしたさまざまな PTA 活動の場に直接伺って、「元気な学校」について一緒に考える『元気ネット』の取組を行っています。

「行きたくなる学校について対話したい。」「いじめ防止について話をしたい。」「家庭での携帯・スマホの活用方法について話し合いたい。」など、学校や地域の実情に応じたテーマに沿って、保護者の方々、地域の方々、先生方が一緒になって「元気な学校」の姿について語り合います。

※ お申し込みは、県ホームページ 子ども教育支援課のお問い合わせフォームから直接お願いします。

<http://www.pref.kanagawa.jp/div/4027/>



地域と学校が目標を共有するための実践事例



地域と学校が目標を共有するために、どのような工夫をしていますか？

まずは、中学校区の幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校の教職員が、交流会等をととして「育てたい子どもの姿」を共有するようにしています。



それをどのように地域に発信しているのですか？

中学校区の教職員が共有した「育てたい子どもの姿」を下図のようにまとめたリーフレットを配付しています。保護者・教職員はもちろん、地元自治会の協力を得て、地域にも配付してより多くの方々に周知しています。

項目	仲間との関わり	あいさつ	きなび	家庭
幼稚園	友達と一緒に楽しく遊ぶ	進んで元気よく	・身のまわりの出来事に興味関心をもつ ・いろいろな遊びを体験し、工夫したり考えたりする	進んで手伝いをする
小学校 (低学年)	自分から進んで友達と関わり、楽しく遊ぶ	進んで元気よく相手の顔を見て	【聞く】 友達の考えを最後まで聞く 【伝える】 みんなの方を向いて、自分の考えを友達に伝えようとする	10分×学年の学習をする
小学校 (中学年)	・個性を認め合う ・相手の気持ちを考えた行動をする	進んで元気よく相手の顔を見て	【聞く】 自分の考えと比べながら聞く 【伝える】 自分の考えを友達に分かりやすく伝える	
小学校 (高学年)	・相手の立場になって考える ・仲間と協力して取り組む機会を知る	時と場合と相手に応じて、明るく・自分から	【聞く】 つながりを考えながら聞く 【伝える】 相手意識をもち、根拠をもちに自分の考えを相手に伝える	
中学校	・認め合い体験しあふ ・あたたかなことば、行動を心がける ・仲間との関わりの中で学ぶ		【聞く・考える・伝える】 仲間の意見や自分と異なる考え方にふれ、自分の考えを深めることができる	

<参考>「みんなで育てよう！泉中学校区の子どもたち」（泉中学校区幼・小・中一体教育研究会）



地域学校協働活動の事例



地域と学校が連携して教育活動を進めていくために、どのような工夫がありますか？

各学年の年間指導計画を学校運営協議会等で共有し、学習に必要な人材や地域の施設等との連絡、調整を地域コーディネーターが担っている事例があります。



コミュニティ・スクール(CS)の取組ですね。地域コーディネーターが学習活動に必要な資源を調整する以外には、どのような取組事例がありますか？

CS委員や地域コーディネーターが学校の指導計画やカリキュラムづくりに参画したり、保護者や地域の方々だけでなく児童・生徒が熟議（熟慮と議論）に参加したりして、地域とともにある学校づくりを進めている取組があります。



そのような取組を通じて、保護者の立場としてどのようなことを感じられましたか？

- 大人が結論や結果を急がず、経験した目線からのアドバイスやサポートをすることで、子どもたちの理解が深まると感じました。
- 子どもに寄り添い耳を傾けることで、子どもの学びにつながると感じました。



◆「児童・生徒質問調査」の学校外での過ごし方に関わる各問いに目を向けてみると…

(26)「放課後や週末に何をしておすることが多いですか(複数選択)」によると、下の表の通り、「家でテレビ、動画、ゲーム、SNS」を選択した児童・生徒の割合が他の選択肢に比べて高い割合にありました。一方、「地域の活動」を選択した児童・生徒の割合は低い状況であることも分かりました。

(26)放課後や週末に何をしておすることが多いですか。(複数選択：%)

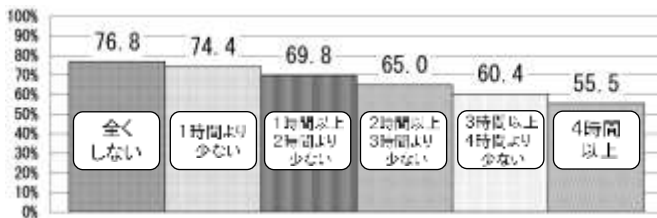
	家で勉強、読書	学習塾等	習い事(スポーツを除く)	スポーツ	部活動	家でテレビ、動画、ゲーム、SNS	地域の活動
小学生	49.8	33.4	41.8	47.6	—	76.4	4.0
中学生	45.8	52.5	24.6	28.8	70.3	88.3	3.3



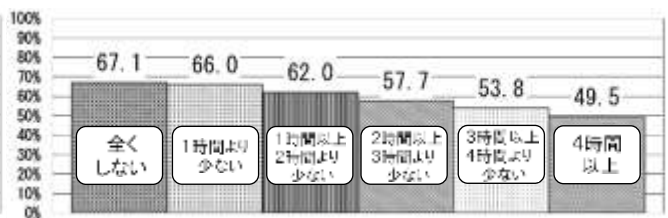
クロス集計してみると…

I. 児童・生徒質問調査(5)「普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」と小・中学校の国語の平均正答率とのクロス集計

【小学生 国語】



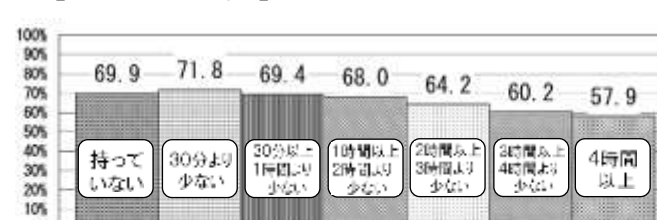
【中学生 国語】



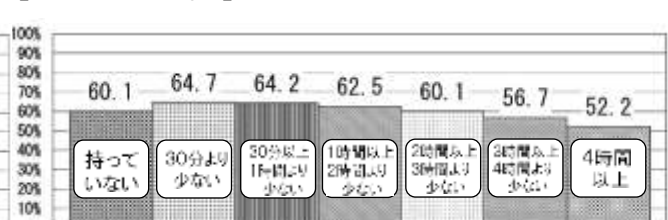
→ 平日のテレビゲームの時間が長い児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が低い傾向が見られます。

II. 児童・生徒質問調査(6)「普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間を除く)」と小・中学校の国語の平均正答率とのクロス集計

【小学生 国語】



【中学生 国語】



→ 平日の携帯電話やスマートフォンの使用時間が長い児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が低い傾向が見られます。

※ 算数・数学の平均正答率の分布は、上記クロス集計 I、II 国語の回答とほぼ同様の傾向が見られました。

○クロス集計の結果などからも、子どもたちの携帯電話やスマホに対する付き合い方を改善していく必要性が見られます。

○学校として、子どもたちに向けて正しいスマホ利用の仕方を伝えていくこと、また、家庭に対しても子どもの適正なスマホ利用についてルール作りを働きかけていくことが大切です。

Op. 34~35 では、保護者会等でスマホ利用をテーマに話し合う際の一助となるように、プリントアウトしてそのまま配布して使用できるリーフレット形式にまとめました。ぜひご活用ください。



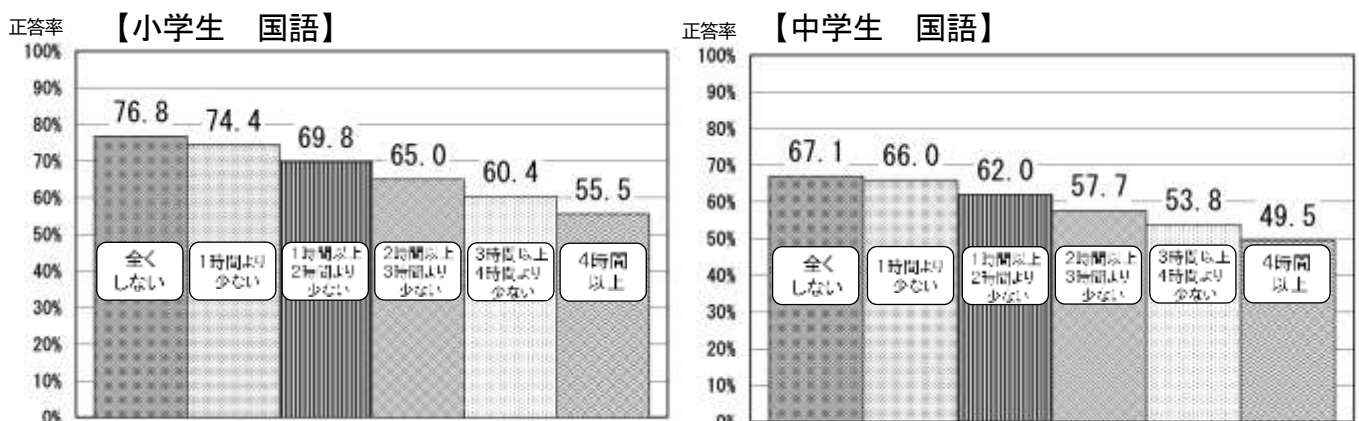
子どもたちのスマホの付き合い方について、話し合ってみましょう!!

令和5年度の子ども家庭庁の調査によると、10歳以上の小学生の7割以上、中学生の9割以上が、自分専用のスマホを所持しています。

また、スマホを含めた一日のインターネット利用の平均時間は、小中ともに3時間を超えており、その利用内容の多くが「趣味・娯楽」目的であると示されています。

また、神奈川県教育委員会では、4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果を基に、ゲームやスマホの利用時間と学力調査の平均正答率には、どのような関係があるのか分析をしました。その結果は、下のグラフのとおりです。

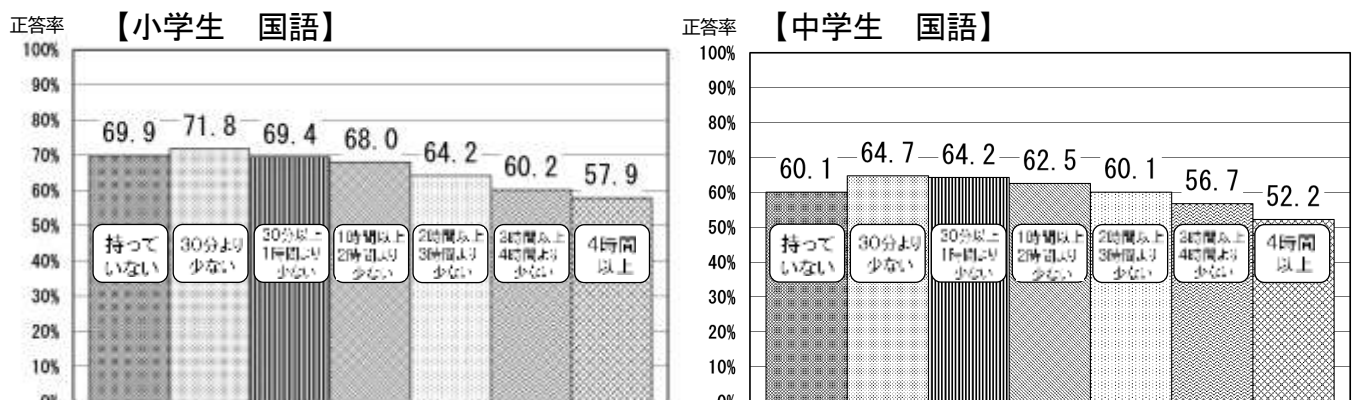
Q. 普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか(「児童・生徒質問調査」(設問5))と、小・中学校の国語の平均正答率とのクロス集計



○ 算数・数学の平均正答率の分布は、上記の国語の回答とほぼ同様の傾向が見られました。

「平日のテレビゲームで遊ぶ時間が長い児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が低い傾向が見られる」

Q. 「普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間を除く)」(「児童・生徒質問調査」(設問6))と、小・中学校の国語の平均正答率とのクロス集計



○ 算数・数学の平均正答率の分布は、上記の国語の回答とほぼ同様の傾向が見られました。

「平日の携帯電話やスマートフォンの使用時間が長い児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が低い傾向が見られる」

携帯電話やスマートフォンとうまく付き合っていくために、家庭内でルールを作ったり、そのルールが現状に合っているかを定期的に見直したりすることが大切です。

ここに注目!!

神奈川県では、子どもたちがインターネット上のさまざまなトラブル等に巻き込まれないように、スマートフォンなどの正しい利用について「青少年のスマホ利用保護者啓発リーフレット」を作成しています。

【見守りポイント1】

スマホの特性や危険性を理解しましょう

情報の拡散による誹謗中傷や依存性に関わるトラブルについて紹介しています。



【見守りポイント2】

フィルタリングを設定しましょう

違法・有害なサイトへのアクセスを制限するフィルタリングの設定の必要性について説明しています。



【見守りポイント3】

親子で一緒にルールを作りましょう

適切なスマホ利用に向けて、親子でルールを作るうえでのポイントを整理しています。

右表のように、ルールを書き込む枠もあります。

- ここがポイント!
- 1 お子さんの成長や能力にあったルールにしましょう。
※SNSアプリの使い始め、長期休暇前、部活動・塾通いをはじめる時はルールを見直すタイミングです。
 - 2 どうしてそのルールが必要なのかを理解させ、お互いに納得したものにしましょう。
 - 3 お子さんが使おうとしているアプリ等を試しに使ってみましょう。
 - 4 定期的に見直しをしましょう。

※他にも、困ったときの相談窓口や「お役立ちホームページ」、出前講座の申込についてなどが紹介されています。

<参考> 「青少年のスマホ利用保護者啓発リーフレット」
(神奈川県青少年課 (地域環境グループ))

<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/25703/1r5sumaho.pdf>



子どもと一緒にスマホ利用のルールを考えるとともに、子どもがスマホと上手に付き合える力を身に付けられるようにサポートすることが大切です。



おすすめルールを基に書いてみましょう!

我が家のルール

★使用時間

★使用場所

★気をつけること

★ルールを守れなかったとき

★困ったとき

子どものサイン

保護者のサイン

<参考情報>

神奈川県教育委員会の主な取組等 参考URL

各学校において、児童・生徒にとっての豊かな学びを実現するために、参考となる各種資料を掲載しています。

■全国学力・学習状況調査の結果について

県教育委員会が分析し公表した本県の調査結果をホームページに掲載した。また、各市町村教育委員会がホームページに公表した調査結果へのリンクを表示した。



<全国学力・学習状況調査の結果について>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakujo/shichousonkekka.html>

■国立教育政策研究所「授業アイデア例」の活用（H21～R3）

国立教育政策研究所は、全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業のアイデアの一例を示すものとして「授業アイデア例」を作成し、学校や教育委員会などに配布するとともに、ホームページに掲載している。



<国立教育政策研究所 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」>

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

■学校運営・教育指導の重点

本県の教育の総合的な指針である「かながわ教育ビジョン」に基づき、めざすべき人間像「思いやる力」「たくましく生きる力」「社会と関わる力」の育成に向け、各学校において、重点的に取り組む事項を整理した。



<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakkounei/juten.html>

■学習評価

学習指導要領に基づき、各学校がカリキュラム・マネジメントを進めていく中で、教育活動の充実・改善のために、より信頼性・妥当性のある学習評価にしていくことができるよう、学習評価資料集、授業づくりの道すじ、児童・生徒、保護者向け学習評価リーフレット、活用ガイドを作成した。



<カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価 学習評価資料（小学校、中学校）>

<学習評価を踏まえた授業づくりの道すじ>

<児童・生徒、保護者向け学習評価リーフレット>

<「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料の活用ガイド」>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f6679/index.html>

■かながわ学びづくり推進地域研究委託事業（H20～）

市町村において、学習指導の成果や課題を明確にし、学力向上や学習意欲の向上、学習に関する学校や家庭、地域の役割や連携について研究する。



<必携 かながわの学びづくり>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/manabi/hikkeikanagawa.html>



<かながわ学びづくり推進地域の取組について>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/manabi/torikumi/toppupeji.html>

■かながわ学力向上シンポジウム（H19～）

学校、家庭、地域の教育力の向上に資するテーマを設定し、幅広い参加者を募り意見交換等を行うことで、学校教育への理解を図る。



<かながわの学びづくりプラン>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/manabi/puran/toppu.html>

■自学自習の習慣づくりのための学習教材

全国学力・学習状況調査の結果から、特に小学校において、学習内容の基礎的・基本的な知識や技能の定着、また、家での復習や自学自習において課題があることが明らかとなった。

そこで、小学校5年生が、自学自習の習慣をつくったり、国語や算数の基礎的・基本的な知識や技能を自分で身に付けたりすることができるように学習教材を作成した。



<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakushushien/jigakujishu.html>

■課題解決教材（H24～H29）

児童・生徒一人ひとりの学習課題の解決に役立てるため、神奈川県公立小・中学校学習状況調査実施後に見えてきた学習課題を解決するための練習問題やワークシートなどの教材を作成し、ホームページに掲載することで、事後指導の取組の改善を図る。



<Let's challenge!課題解決教材>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakushushien/kadaikaiketsu/gaiyou.html>

■ICTを活用した学びづくりのための手引き（小・中学校）

各小・中学校において、ICTを活用した教育活動を進めるにあたっての留意事項や具体的な活用方法などを取りまとめた「手引き」を作成した。



<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakushushien/ict.html>

■キャリア教育

児童・生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるキャリア教育を推進する、小・中学校教員向けの指導資料を作成した。



<かながわキャリア教育指導資料>
<かながわ版キャリアパスポート>
<キャリア・パスポートの効果的な引き継ぎに向けて>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f537614/kyariakyouiku.html>

■小中一貫教育の推進について（H27～）

義務教育9年間を通して児童・生徒の豊かな「学び」と「育ち」を育む小中一貫教育を推進する。



<小中一貫教育の推進について>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/shouchuikkan/suishin.html>

■コミュニティ・スクール（H22～）

学校と地域住民・保護者が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」に転換するための仕組みにより、地域ならではの創意工夫を生かした特色ある学校づくりを推進する。



<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/komisuku.html>

■自己肯定感を高めるための支援プログラム（H30～）

すべての子ども・若者の未来を信じて、そして、神奈川で生まれ、育った子ども・若者たちが、自己肯定感をもってほしいという願いのもと、「見つける→気づく→関わる」というプロセスからなるプログラムを作成した。



<自己肯定感を高めるための支援プログラム>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/seitosidou/jikokouteikan.html>

■かながわ元気な学校ネットワークの推進（H23～）

産・官・学・民からの委員で構成する「かながわ元気な学校ネットワーク推進会議」（H23.8 設置）を推進母体に、すべての子どもたちを元気にし、教職員・保護者も、さらに地域の人たちも元気にするような学校づくりを推進する。



<かながわ元気な学校づくり通信「はにい」>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/seitosidou/hanii.html>



<かながわ「いのちの授業」>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f417796/index.html>

■教室に行こう（H26～）

神奈川県における学校の様子を広く県民に広報し、学校の教育活動の理解を得ることを目的として、神奈川新聞教育面「教室に行こう」を掲載する。同時に、神奈川新聞のホームページ「カナロコ」にも掲載する。

県内の幼・こ・小・中・高・特別支援学校において、教職員や子ども達が生き生きと学んでいる授業の様子を県教育委員会の指導主事が取材し、広報する。



<https://www.kanaloco.jp/tag/939>

■学級経営支援事業（H27～）

小学校における学級経営の充実に向け、経験豊かな退職教員を非常勤講師として派遣し、課題を抱える児童や学級に対し、継続的指導・支援を行い、問題行動等の未然防止を図るとともに、その成果について周知する。



＜子どもが輝く学級経営につながる学級担任の指導のポイント＞

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/gakkyukeiei-point.html>

■その他関連資料



＜インクルーシブな学校づくり Ver. 3.0＞

<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/kenkyu/documents/inclusive3.pdf>



＜小・中学校における政治的教養を育む教育＞

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/seijitekikyoyou/gaiyou.html>



＜わたくしたちの生活と進路＞

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f6687/watashin.html>



＜手話啓発リーフレット「手話を楽しく学ぼう」＞

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/shuwa/refuretto.html>



＜児童・生徒指導ハンドブック(小・中学校版)＞

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/seitosidou-handbook.html>



<神奈川県児童・生徒の問題行動・不登校等調査の結果について>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/kanamonkou.html>



<いじめのない学校づくりのために～小学校・中学校・高等学校・特別支援学校
校種を越えたメッセージ～>

<https://edu-ctr.pen-kanagawa.ed.jp/kankoubutu/download/h25kankoubutu.html>



<いじめ防止対策を推進するための申し合わせ事項>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/mousiwasejiku.html>



<支援を必要とする児童・生徒の教育のために（令和3年3月版）>

<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/kenkyu/shienkyouiku.html>



<外国につながるのある児童・生徒への指導・支援の手引き>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f420361/index.html>



<県立総合教育センターの刊行物一覧>

<https://edu-ctr.pen-kanagawa.ed.jp/kankoubutu/index.html>